

# 大学図書館問題研究会 京都

〒607 京都市山科区大宅山田町34 京都橋女子大学図書館 小林倫道気付  
(Tell) 075-574-4118 (Fax) 075-574-4124

## 第3回大学図書館員京都研究集会

# 大学図書館における利用者教育の理論と実践

日時 1994年11月13日(日) 10:00開会 どなたでも  
参加できます

場所 同志社大学 今出川+大3 神学館21番教室

参加費 1,000円 (資料費) 主催/大学図書館問題研究会京都支部

### 基調報告

大城善盛氏 (同志社大学教授・図書館学)

## 大学図書館における 利用者教育～その意義と実状

### 【プログラム】

9:30 受付開始  
10:00 開会  
10:10 基調報告  
1:00 実践報告  
5:00 終了予定  
5:30~7:30 懇親会  
(懇親会詳細は4p.)

### 実践報告

- ①京都橋女子大学図書館におけるゼミでの利用者教育
- ②京都産業大学における図書館員による利用者教育
- ③大阪市立大学医学部における利用者教育
- ④京都精華大学における教員による利用者教育 (交渉中)

### ●参加申込及び問合せ●

堤美智子 京都大学人文科学研究所 TEL 075-753-6907 FAX 075-753-6956  
 竹本文夫 同志社大学人文科学研究所 TEL 075-251-3940 FAX 075-251-3062  
 松原 修 立命館大学メディアセンター TEL 0775-61-2631 FAX 0775-61-2633

- ※ 資料準備の都合上、11/5までに上記までお申込み下さい。
- ※ 併せて懇親会の出欠についてもできるだけお知らせ下さい。

# 利用者教育を斬る !!

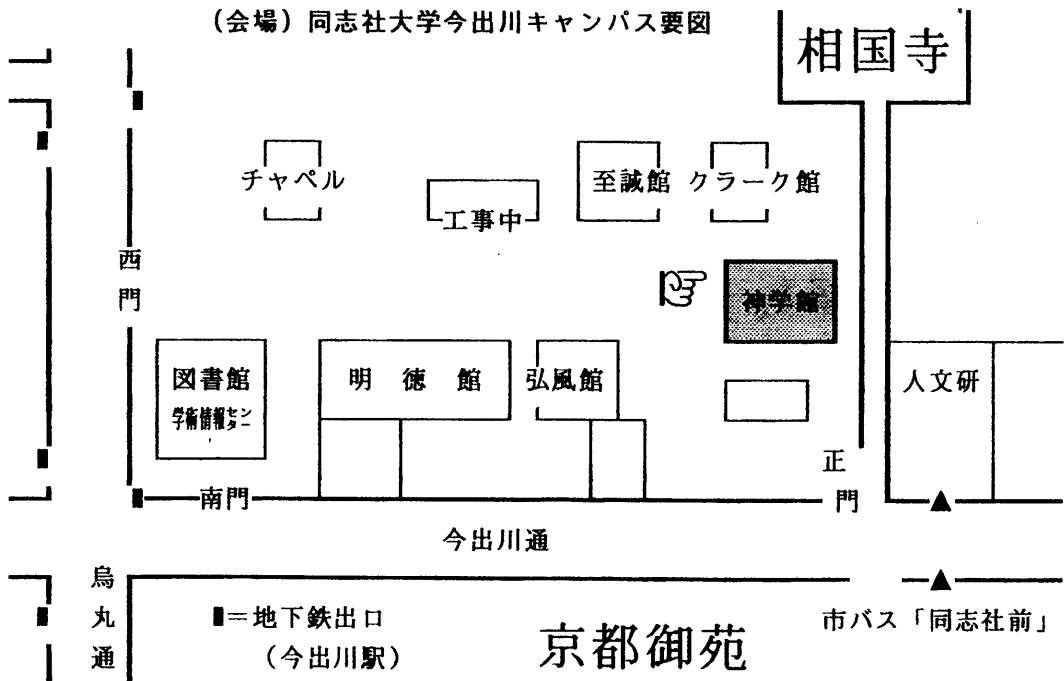
— 第3回大学図書館員京都研究集会のポイント —

今年で第3回を数える大学図書館員京都研究集会では今回、「大学図書館における利用者教育の理論と実践」をテーマに設定しました。日本図書館学会研究委員会は「論集・図書館学研究の歩み；第14集」（日外アソシエーツ）で「図書館における利用者教育」を取り上げています。本研究集会ではそこでの到達点を踏まえ、現場における課題を明らかにしていきたいと思えます。ポイントは以下の3点。

第1に、実施しているところが4割に満たない（34.7%）大学図書館の利用者教育を活性化させ、実施率を大幅に引き上げる方法を探る。

第2に、現在行なわれているガイダンスや講義1コマで行なわれている利用者教育の実態と問題点を明らかにする。そして「図書館の達人」の活用なども含め、利用者の視点に立った利用者教育への改善をめざす。

第3に、教員や医学図書館員による、通年のカリキュラムに組み込まれた利用者教育の先進事例に学び、それを広く実現する方法を追求する。



- ※ 地下鉄烏丸線「今出川」下車
- ※ 三条京阪前から市バス（59系統）で「同志社前」下車
- ※ 地下鉄鴨東線「出町柳」から今出川通りを西へ徒歩25分。
- ※ 地下鉄鴨東線「出町柳」（バス停「鴨大橋東詰」）から市バス（201、203系統）で「同志社前」下車

第3回大学図書館員京都研究集会 (11月13日(日)・於 同志社大学今出川校舎)

# 大学図書館における利用者教育

## その意義と実状 (基調報告要旨)

大城 善盛

大学図書館における利用者教育は、わが国では短期大学や医学薬学系のある大学図書館で盛んである。他の大学図書館となると、慶応義塾大学や京都産業大学などのような一部を除くと、あまり活発でない。利用者教育は、大学図書館にとってあまり必要ではないのだろうか。そもそも、利用者教育とは一体何だろうか。そして、その目的は何なのだろうか。

私は、大学図書館における利用者教育には、オリエンテーション、一般的情報探索指導、専門的情報探索指導の3種類(レベル)があつて、それを段階的に実施することが利用者教育だと考えている。もし前の段階が必要であるのにやらずに、専門的情報探索指導のみをやっている大学図書館があるとしたら、私はその図書館が利用者教育をやっているとは見なさない。しかし、実際にやっている訳だから、全く否定することもできないので、欠陥に満ちた利用者教育をやっている、ということになろう。

それでは、利用者教育は何のためにやるのだろうか。(利用者全般にも当てはまることであるが)、学生を主眼に考えると、その目的は学生の情報処理能力の育成にある。別の言い方をすれば、生涯学習能力の育成を目的としている、ということもできる。学生の情報処理能力の育成は(最近では、情報処理能力と言わず、情報リテラシーという言葉が使われるようになってきているが)、ひとり図書館が負うものではなく、大学の大きな教育目標の一つでなければならない。そして、図書館の利用者教育は、大学のカリキュラムと一体となつてはじめて、その機能を十分に発揮できるのである。

利用者教育を内容面からみていくと、オリエンテーション・レベルでなされる図書館のレイアウト、コレクションの組織化、基本的なサービスについての紹介から、一般的情報探索指導レベルの文献(学問)成立過程、目録や基本的参考図書の利用、データベースの使い方等の説明、専門的情報探索指導レベルの専門情報の収集法やレポートの作成法、などさまざまな内容があり、その実施法もワークショップ、クラスへの出向、独立科目、個別指導等さまざまなものがある。

我々は、最近わが国の大規模大学図書館の利用者教育の実態調査を終えたところである。調査によると、大学のオリエンテーションの一環としてではなく、図書館独自のオリエンテーションを実施している図書館が71館中40館、オリエンテーション以外の利用者教育を行っている図書館は53館もあり、我々の予測

を大きく上回るものであった。さらに、関西と関東を比べてみると、「東高西低」の傾向がはっきり見られ、レファレンス・サービスの「東高西低」を裏付ける形になった。しかし、内容や実施方法において、関東関西に拘らず、改善すべき点も多く見られた。

私は、『図書館における利用者教育：理論と実際』（日外アソシエーツ、1994）の編集を担当し、その中に拙文「米国の大学図書館における利用者教育の動向」を掲載したが、文献を調べてアメリカの大学図書館の利用者教育の発展のすばらしさにびっくりした。当日は、その辺の話もしたい。

(同志社大学教授・図書館学)

【大城先生のプロフィール】

『図書館における利用者教育』編集者

「米国の大学図書館における利用者教育の動向」執筆者

「大規模大学図書館における利用者教育の実態調査報告」学会報告

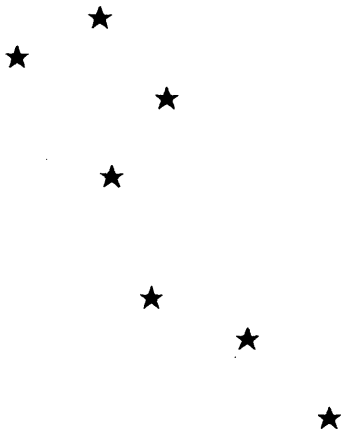
## 終了後、懇親会開催！！

会費：5,000円程度の予定

場所：京大か同志社の近辺

当日会場でご案内します

研究集会の後は、第2ラウンド「懇親会」をご用意しています。集会の議論を深めたり日常的な仕事の悩みを解消する又とない機会です。是非ご参加を。



### 第3回大学図書館員京都研究集会PR号【目次】

研究集会プログラム.....	1頁
利用者教育を斬る（集会のポイント）.....	2頁
基調報告要旨（大城善盛）.....	3頁

## 次号は11・12月合併号

12月中旬発行予定（「研究集会記録号」）